

## <資料>

### =信濃毎日新聞データベースから=

「松本城を世界遺産に」 実行委が事業計画決定 PRグッズ製作へ
2010(平成 22)年 7 月 2 日(金) 朝刊 31 ページ 中信 1 面 6 版
発信元: 自社 文字数: 343
記事種別: 記事 区分: 本社 ジャンル: 文化・芸能

松本市や信濃毎日新聞社など55団体でつくる「国宝松本城を世界遺産に」推進実行委員会(会長・菅谷昭市長)は1日、あがたの森文化会館で総会を開いた。松本城管理事務所の青木教司・研究専門員が、歴史研究を踏まえ登録への方向性を示したほか、本年度の事業計画を決めた。

実行委は、既に登録済みの兵庫県・姫路城に、松本城、滋賀県・彦根城、愛知県・犬山城を加えた4城で「日本の近世城郭群」としての登録を目指している。青木研究専門員は、登録のハードルが高まる中、城下町は対象に含めずに「城郭単独でも価値を十分に訴えられる」とした。

また本年度、松本市のキャラクター「アルプちゃん」や、彦根城がある滋賀県彦根市の「ひこにゃん」など、各地で人気のキャラクターを使った共通のデザイングッズを作ることも決めた。

わかるかな「松本城クイズ」 筑摩小6年生80人が挑戦
2010(平成 22)年 11 月 17 日(水) 朝刊 27 ページ 中信 1 面 6 版
発信元: 自社 文字数: 460
記事種別: 記事 区分: 本社 ジャンル: 教育・青少年,文化・芸能

松本市や信濃毎日新聞社などでつくる「国宝松本城を世界遺産に」推進実行委員会は16日、松本城への理解を深める「松本城クイズ」を、同市筑摩小学校で行った。22日に松本城見学を予定する6年生約80人が、城に関するクイズ55問に挑戦した。

クイズは3月に続いて2回目。前回は親子を対象に参加者を募って実施したが、今回は、同校の松本城見学の計画を知った実行委が「事前学習に」と持ち掛けた。

クイズは、三者択一形式の50問と、記述形式5問。問題を考えた城管理事務所研究専門員の後藤芳孝さん(62)が「松本城の石垣の積み方は何と呼ぶか」「松本藩主の家の組み合わせはどれか」などと読み上げ、児童たちは真剣な表情で解答用紙に向かった。答え合わせ後、2012年3月まで無料で松本城に入場できるというクイズの「博士証」が全員に配られた。

1問しか間違えなかったという富田飛勇(ひゆう)君(11)は「勉強してきたけど、難しい問題もあった。見学で確かめたいことがいっぱいできた」。後藤さんは「ほかの小学校でも出前クイズをやりたい」と話していた。

「世界遺産の現状」聞こう 松本で来月17日講演会 前ユネスコ事務局長招き
2011(平成23)年1月25日(火) 朝刊33ページ 広域2面 6版
発信元: 自社 文字数: 323
記事種別: 記事 区分: 県内 ジャンル: 文化・芸能

松本市や信濃毎日新聞社などでつくる「国宝松本城を世界遺産に」推進実行委員会(会長・菅谷昭松本市長)は2月17日、国連教育科学文化機関(ユネスコ、本部・パリ)前事務局長の松浦晃一郎さん(東京)を招き、市内で講演会を開く。

松浦さんは1999年から2009年までユネスコ事務局長を務めた。講演では「世界遺産の現状と将来」と題し、ユネスコによる世界遺産の登録について話す。

同市本庄1のホテルブエナビスタで午後3時から。聴講は無料。先着100人で、事前の申し込みが必要。希望者は、はがきに氏名、住所を明記して信濃毎日新聞松本本社の松浦晃一郎講演会係(〒399—8711 松本市宮田2—10)へ郵送するか、ファクス(0263・26・8730)で同係へ。

連携で松本城を世界遺産に ユネスコ前事務局長が講演
2011(平成23)年2月18日(金) 朝刊28ページ 広域1面 6版
発信元: 自社 文字数: 421
記事種別: 記事 区分: 県内 ジャンル: 文化・芸能

松本市や信濃毎日新聞社などでつくる「国宝松本城を世界遺産に」推進実行委員会の主催で、国連教育科学文化機関(ユネスコ)前事務局長の松浦晃一郎さん(73)が17日、同市で講演した=写真。松本城の世界遺産登録を目指す運動が他の国宝3城と協力していることに対し「国重要文化財の城の一部も共同研究に入ることが大事ではないか」との考えを示した。

3城は、世界遺産に登録済みの兵庫県・姫路城、未登録の滋賀県・彦根城と愛知県・犬山城。松浦さんは、近年は単体の建築物ではなく、グループで世界遺産登録する例が目立つと指摘。国内に城自体が残る国重文が8件あるとし「国宝4城では補えない要素を補完し、『16～17世紀の日本の城郭』というコンセプトをしっかりとつくり、事前審査に備えるべきだ」と述べた。

世界遺産候補を生かしたまちづくりの重要性も強調。「松本でも、城外堀の復元事業を進める、周囲の景観を向上させるなど市民の理解が重要。それが登録の道を早める」と話した。

平泉・小笠原世界遺産登録へ 県内の登録目指す関係者 「息の長い取り組みに」
--

2011(平成23)年5月8日(日) 朝刊26 ページ 社会2面 9版
-------------------------------------

発信元: 自社 文字数: 536
------------------

記事種別: 記事 区分: 県内 ジャンル: 文化・芸能
-----------------------------

「平泉の文化遺産」(岩手県)などについて世界遺産への登録勧告が出たことを、善光寺(長野市)などの登録を目指す県内関係者も朗報と受け止めた。2008年に登録が見送られた平泉は再挑戦が実った。同年は善光寺や松本城(松本市)など県関係4件が世界文化遺産の国内候補入りを逃しており、今回の知らせに「息の長い取り組みを」と意気込む人もいた。

長野市の団体や企業などでつくる「善光寺の世界遺産登録をすすめる会」会長の加藤久雄・長野商工会議所会頭は、「国内の文化遺産に厳しい状況が続いていたので良かった」と歓迎。「自分たちも地道な活動を続けていけば可能性がある」と期待した。

松本市などでつくる「国宝松本城を世界遺産に」推進実行委員会の副会長を務める田中 荘太・松本古城会会長は「平泉に比べると(松本城の取り組みは)まだまだ前の段階にあり、登録までには時間がかかる」としつつ、「意欲を持って息の長い取り組みにしていきたい」と話した。

一方、長野、山梨、静岡3県10市町村の推進協議会が、世界自然遺産への登録を目指す南アルプス。推進協副会長の白鳥孝伊那市長は、自然遺産国内候補の「小笠原諸島」(東京都)にも登録勧告が出たことについて、「南アにもチャンスが近づいた。活動に弾みがつく」と喜んでいった。